

# Contents Sheet

## Contents: 騒音や振動、Gが脳に与える影響と対策

-遺伝子分析から聴覚・平衡感覚刺激による脳の活性化で更なるスキル



## The contents of contents

音すなわち聴覚刺激は、生命のコントロールセンターである脳幹に大きな影響を与える。とくにフォーミュラカーから出る音は強大であり上手に利用しないと方向感や平衡感覚が試される高速での状況判断を誤ることになる。

音つまり音響に対する個人の脳の力は、生後より遺伝子にも支配されている。瞬発力を要求されるアスリートは視覚、聴覚、平衡覚、嗅覚を総動員しなければならない。本講演では、各個人が音や振動、Gに対しどれだけの予備能が脳にあるかをチェックし、感覚系をトレーニングすることで更なるスキルアップを可能とすることを目的とする。(講習型 80,000円 交通費別途)

## PERSONAL DATA

NAME / 坂田英明

PART / 講師  AGE / 1962年生まれ

SPECIALTY / MC

学歴

昭和63年3月

平成11年3月

平成元年5月

平成6年9月

平成11年11月

LICENSE / Career 欄を参照

埼玉医科大学医学部卒業 (医学士)

医学博士 (帝京大学)

博士論文: トーンバースト刺激によるネコ聴皮質での誘発電位 - 覚醒時と麻酔下でのオフ反応の比較 -

医師免許証 (厚生省) (医籍3271753)

日本耳鼻咽喉科学会専門医 (8272)

身体障害者福祉法指定医 (埼玉県) (指令障福 第2945)

平成12年7月	補聴器適合判定医（厚生省）（1287）
職 歴	
平成元年6月	帝京大学医学部附属病院耳鼻咽喉科 研修医（至平3.3）
平成3年4月	帝京大学医学部附属病院溝口病院耳鼻咽喉科病院 助手（至平5.3）
平成5年4月	帝京大学医学部附属病院市原病院耳鼻咽喉科病院 助手（至平7.3）
平成7年4月	埼玉県立小児医療センター-耳鼻咽喉科 医員（至平10.3）
平成10年4月	帝京大学医学部附属病院市原病院耳鼻咽喉科 助手（至平11.3）
平成11年4月	独国Magdebrug大学耳鼻咽喉科 留学
平成11年7月	米国ニューヨーク州立大学耳鼻咽喉科（研修）
平成11年8月	埼玉県立小児医療センター-耳鼻咽喉科（科長）医長（至平17.3）
平成16年4月	東京大学医学部耳鼻咽喉科 客員研究員（至平17.3）
平成17年4月	日本大学歯学部小児歯科 兼任講師（現在に至る）（睡眠時無呼吸 担当）
平成17年4月	埼玉県立小児医療センター-耳鼻咽喉科（科長）兼副部長（至平20.3）
平成18年4月	目白大学保健医療学部言語聴覚学科 兼任講師（言語聴覚医学 担当）
	目白大学保健医療学部言語聴覚学科 教授（耳鼻咽喉科学）
平成20年4月	目白大学耳科学研究所クリニック 院長（『神経耳科学』）
学会及び社会における活動等	
現在所属している学会	
日本耳鼻咽喉科学会	
日本耳科学会	
日本小児耳鼻咽喉科学会	
日本聴覚医学会	
日本めまい平衡医学会	
Neurootological and Equilibrimetric Society	
学会及び社会における活動等	
平成8年3月～	Neurootological and Equilibrimetric Society 正会員（現在に至る）
平成12年3月～	International Tinnitus Journal 編集委員（現在に至る）
平成15年4月～	日本耳鼻咽喉科学会埼玉県地方部会理事、福祉医療委員（至平24.3）
平成18年9月～	日本耳科学会代議員、編集委員（現在に至る）
平成18年10月～	埼玉小児科耳鼻科臨床懇話会代表世話人（現在に至る）
平成19年6月～	日本小児耳鼻咽喉科学会理事、ホームページ委員長、法人化検討委員長（至平26.6）
平成26年6月～	日本小児耳鼻咽喉科学会評議員（現在に至る） 日本聴覚医学会評議員（現在に至る）

平成20年10月

特定非営利活動法人第8神経を考える会 代表（現在に至る）

教育及び職務上に関する事項

厚生労働省ならびに各都道府県の要請に応じ新生児聴覚障害支援など小児耳鼻領域における研究並びに社会活動を行っている。具体的には小児救急の整備、新生児聴覚障害早期発見のための聴覚検査の普及啓蒙活動等では埼玉県での活動の発起人となり、専門家の教育、患者やその家庭への聴覚障害に関するガイドラインの作成など活動全体を支援し、今日に至る。

新生児聴覚検査による早期発見の重要性について、厚生労働科学研究の報告を通じて発表し、国内全域への普及に向け鋭意活動している。平成20年ベトナムより新生児の聴覚障害支援の要請があり、現在相談役として日本での支援体制、療育に関する現況等についてアドバイスをを行っている。

最近の研究の状況（平成20年度～平成25年度）

厚生労働省科学研究

全新生児を対象とした先天性サイトメガロウイルス（CMV）感染

子ども家庭総合研究事業

スクリーニング体制の構築に向けたパイロット調査と感染児臨床像の解析エビデンスに基づく治療指針の基盤策定

厚生労働科学研究

人工内耳を装用した先天性高度感音難聴小児例の聴覚・言語能力の発達に関する人工エビデンスの確立

感覚器障害研究事業

厚生労働科学研究

先天性難聴児の聴覚スクリーニングから就学後までの補聴器・人工内耳装用効果の総合追跡研究

感覚器障害研究事業

厚生労働科学研究

小児Auditory Neuropathyの診療指針の確立

感覚器障害研究事業

厚生労働科学研究

両側性蝸牛神経形成不全症の治療指針の確立

難治性疾患克服研究事業

厚生労働科学研究

先天性両側小耳症・外耳道疾患に対する、良い耳介形成・外耳道・鼓膜・鼓室形成術の開発と両耳聴実現のためのチーム医療

難治性疾患克服研究事業

厚生労働科学研究

日本におけるハイブリッド型人工内耳の適応基準の提唱および蝸牛を保護する電極・術式・薬剤の開発

障害者対策総合研究事業

厚生労働科学研究

周産期の難聴のハイリスクファクターの新分類と診断・治療方針の確立

難治性疾患等克服研究事業

厚生労働科学研究

新生児聴覚スクリーニング導入以前と以後に育った先天性難聴児の診断・治療による中東教育までの成果と不都合な現実の対策のための研究

障害者対策総合研究事業

厚生労働科学研究

遺伝性難聴および外耳、中耳奇形に関する調査研究

難治性疾患等克服研究事業

厚生労働科学研究

新しい人工内耳（EAS）に関する基礎的、臨床的研究

障害者対策総合研究事業

厚生労働科学研究

乳幼児の疾患疫学を踏まえたスクリーニング及び健康診査の効果的実施に関する研究

成育疾患克服等次世代育成基盤

厚生労働科学研究

次世代シーケンス技術を用いた分子遺伝学的検査の臨床活用に関する研究

障害者対策総合研究事業